

高齢者施設で多発

クラスター

新型コロナ

県内の高齢者施設で今月、新型コロナウイルスのクラスター（感染集団）が相次いでいる。22日現在で9件発生し、月別では最多となった。1月にクラスターが発生した仙台市にある施設の男性管理者(34)は、瞬く間に感染が広がった当時の困惑を振り返り、徹底した対策の重要性を強調した。(木村友美)



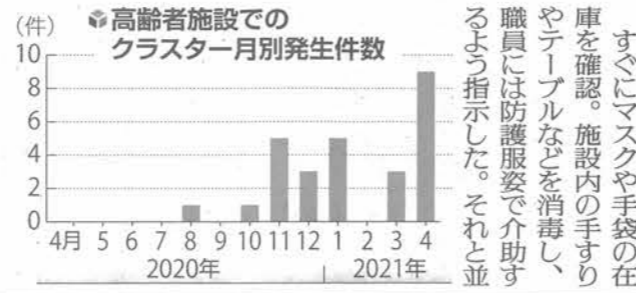
クラスターが発生した高齢者施設では、施設内の各所に注意書きを掲示した(19日、仙台市で)

瞬く間に拡大・対策徹底重要

陽性者判明「頭真っ白に」

「頭が真っ白になった。何をすればいいのかわからなかった」。男性は最初の感染者が出た当時の心境を吐露した。

この施設では1月初旬の朝、室内で転倒した入居者が救急搬送され、病院で念のため抗原検査したところ、陽性が判明した。その日の午後2時頃には保健所から電話があり、防護服の着用や使い捨てできる食器の使用、消毒液の作り方、陽性者と接触があった職員が自宅待機などの指示があった。



2 高齢者施設をクラスター認定

新規感染78人
県と仙台市は22日、新たに78人が新型コロナウイルスに感染したと発表した。このうち、美里町の高齢者施設で36人の感染が確認された。県内の医療機関に入院していた患者1人が死亡し、累計の感染者は7807人、死者は54人になった。県によると、同町の高齢

者施設で感染したのは大崎市の80歳代無職女性らで、この日までに計40人が感染。県はクラスター（感染集団）と認定した。体調不良の職員が出動し、利用者のPCR検査が遅れるなどしたことが、感染拡大の要因とみられるという。名取市の高齢者施設でもクラスターが発生した。仙台市では患者5人から変異したウイルス「N501Y」が検出された。同市では計16人となった。この

ほかに、3月22〜31日に陽性が判明した96人のうち94人から、変異ウイルス「E484K」が検出された。仙台市は20日に感染を公表した70歳代男性について、再検査の結果、陰性と判明したと発表した。

同課の担当者は「要請に応えられなかった事例はないが、勤務調整などに時間がかかり、派遣まで最長5日間かかった例もある。応援し合える土壌をつくっていきたい」と話している。

別施設から派遣延べ177人に

県は昨年8月、陽性者が確認された高齢者施設に、別の施設から職員を派遣する制度を始めた。今月19日までに4施設へ延べ177人を派遣した。

診療所や介護施設を運営する仙台市東区の「清山会医療福祉グループ」は、延べ37人の職員を派遣した。職員の塩原一樹さん(41)はクラスターが発生した高齢者施設へ行き、感染リスクが高い「レッドゾーン」で食事介助や清掃などを行った。ギャップに「ゴール、高性能マスク「N95」などフル装備で対応するため疲

新型コロナウイルスの感染者

仙台市	4981	21	富谷市	142	2	大和町	65	1
石巻市	268		蔵王町	19	1	大郷町	26	
塩釜市	216		七ヶ宿町	3		大衡村	19	1
気仙沼市	130		大河原町	49	1	色麻町	10	
白石市	18		村田町	38		加美町	70	2
名取市	247	3	柴田町	71	4	涌谷町	18	2
角田市	63	1	川崎町	17		美里町	60	22
多賀城市	222		丸森町	28	1	女川町	7	
岩沼市	109		亶理町	49		南三陸町	4	
登米市	176	5	山元町	16		県外など	12	
栗原市	66	1	松島町	59		合計	7807	78
東松島市	81		七ヶ浜町	54		死亡	54	1
大崎市	254	10	利府町	140				

22日午後9時現在、右枠は増加数

ず、換気も不十分で、男性は「感染対策が甘かった部分があった」と述べた。食堂で感染が広がったとみられるという。

感染判明後、職員は入居者を介助する度に防護服を着替え、回数は1日で30回以上になった。施設内を、濃厚接触者などがいて感染の可能性が高い「レッドゾーン」、防護服を脱ぐ「イエローゾーン」、安全な「グリーンゾーン」に区分けした。職員と入居者全員の陰性を確認し、2週間の経過観察を含めて約1か月、区分けを続けた。

男性は「難聴の入居者にはどうしても大きな声でしゃべりかけないといけないし、認知症の入居者へのマスク徹底も難しい」と高齢者施設ならではの難しさを訴える。ただ、「きちんと

者施設で感染したのは大崎市の80歳代無職女性らで、この日までに計40人が感染。県はクラスター（感染集団）と認定した。体調不良の職員が出動し、利用者のPCR検査が遅れるなどしたことが、感染拡大の要因とみられるという。名取市の高齢者施設でもクラスターが発生した。仙台市では患者5人から変異したウイルス「N501Y」が検出された。同市では計16人となった。この

ほかに、3月22〜31日に陽性が判明した96人のうち94人から、変異ウイルス「E484K」が検出された。仙台市は20日に感染を公表した70歳代男性について、再検査の結果、陰性と判明したと発表した。

同課の担当者は「要請に応えられなかった事例はないが、勤務調整などに時間がかかり、派遣まで最長5日間かかった例もある。応援し合える土壌をつくっていきたい」と話している。

県は昨年8月、陽性者が確認された高齢者施設に、別の施設から職員を派遣する制度を始めた。今月19日までに4施設へ延べ177人を派遣した。

診療所や介護施設を運営する仙台市東区の「清山会医療福祉グループ」は、延べ37人の職員を派遣した。職員の塩原一樹さん(41)はクラスターが発生した高齢者施設へ行き、感染リスクが高い「レッドゾーン」で食事介助や清掃などを行った。ギャップに「ゴール、高性能マスク「N95」などフル装備で対応するため疲

よると、22日までに県内で116件のクラスターが発生、うち27件が高齢者施設だった。

労感はずいぶん倍だったとい、一命に直結する仕事。緊張感はずいぶんあった」と話した。

県長寿社会政策課によると、県介護福祉士会や県老人福祉施設協議会など県内6団体を通じて派遣可能な職員を募集し、3月12日時点で86施設の240人が登録されている。

同課の担当者は「要請に応えられなかった事例はないが、勤務調整などに時間がかかり、派遣まで最長5日間かかった例もある。応援し合える土壌をつくっていきたい」と話している。

感染判明後、職員は入居者を介助する度に防護服を着替え、回数は1日で30回以上になった。施設内を、濃厚接触者などがいて感染の可能性が高い「レッドゾーン」、防護服を脱ぐ「イエローゾーン」、安全な「グリーンゾーン」に区分けした。職員と入居者全員の陰性を確認し、2週間の経過観察を含めて約1か月、区分けを続けた。

男性は「難聴の入居者にはどうしても大きな声でしゃべりかけないといけないし、認知症の入居者へのマスク徹底も難しい」と高齢者施設ならではの難しさを訴える。ただ、「きちんと

者施設で感染したのは大崎市の80歳代無職女性らで、この日までに計40人が感染。県はクラスター（感染集団）と認定した。体調不良の職員が出動し、利用者のPCR検査が遅れるなどしたことが、感染拡大の要因とみられるという。名取市の高齢者施設でもクラスターが発生した。仙台市では患者5人から変異したウイルス「N501Y」が検出された。同市では計16人となった。この